

A-4 農家家計費の問題点について

日本女子大学 宮崎 礼子

従来は家政学がややもすれば都市生活に重点がおかれていたように見られるが、わが国は人口の約 1/2 を農民が占めており、この農民生活＝生活水準の問題究明は、わが国の現状からみて誠に意義あることである。

都市生活者家計の場合 生活水準は賃金の水準により殆ど規定されてくるが、日本の農家生活においては、農業経営と家計は未分離の状態におかれており、農家家計の考案に当っては都市家計と異なるいくつかの基本的問題点が明らかにされなければならない。

第一は現物（自給部分）が農家家計費構成の主要を占めており、第二には都市生活の場合と異り、その生活内容は季節的変化が顕著にみられる。1年を周期とする農業生産の自然的特殊性と日本農業の歩んで来た歴史的な要素などによって規定される。この視角から農家家計を地域別と階層別に考察を試みたが、これが新しい農村家政学の基礎的研究として、ささやかな緒を供することとなれば幸である。